道の駅米沢は、間もなく開業して半年を迎えます。多くの皆さんにご来場いただきありがとうございます。

さて、道の駅米沢には、米沢牛をゆっくり味わっていただけるレストラン「牛昆亭」があります。お肉本来の色あいが確認できる有機EL照明を使用した冷蔵ショーケースから、お客さんがその場で肉の部位や量をオーダーできる「米沢牛チョイスオーダーカットステーキ」は、大変好評をいただいています。

さらに、9月からは米沢牛の刺身やユッケを食べることができるようになりました。1つの施設で生肉を加工から飲食提供まで実施する所は、置賜地域初となり、新たな道の駅米沢の目玉となります。

このように、G－（地理的表示）保護制度に登録された米沢牛を満喫していただくため、高度な衛生管理システムを備えた加工施設を設置し、安全、安心な米沢牛を提供していきます。

道の駅米沢
秋の大収穫祭

■**期間**／10月6日(土)～8日(月・祝)
■**場所**／道の駅米沢
■**内容**／餅の振舞い、日本酒・ワインの試飲会、農産品・特産品の特売、手ぶらで芋煮会、おしょうしな市 など

道の駅田沢
20周年記念感謝祭

■**日時**／10月7日(日)9時～15時30分
■**場所**／道の駅田沢
■**内容**／ステージイベント、屋台、餅の振舞い、50円売店、福引大会、じゃんけん大会 など

米沢偉人伝 ⑫

Itsuzo Hata

秦逸三（1880 － 1944）

帝人株式会社提供

本市で誕生した帝人株式会社が今年創業百周年を迎えました。今月は帝人創業者の1人、秦逸三を取り上げます。

日本で初めて人造絹糸を開発、帝人の創業者

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ エピソード1

人造絹糸を研究

秦逸三は、明治13年、広島県安芸郡海田町に生まれました。東京帝国大学工科大学応用化学科を卒業し、いくつかの職を経験した後、明治45年に米沢高等工業学校応用化学科の講師として赴任します。

逸三が取り組んだ研究は、ビスコース法による人造絹糸（レーヨン）の開発でした。ビスコース法とは、木材パルプを水酸化ナトリウムで処理し、二硫化炭素を加えて精製した水溶液を噴出させて糸を作る方法です。実験中に二硫化炭素中毒のため何度も倒れるなど壮絶な研究を積み重ね、大正4年に日本で初めて人絹の製造に成功しました。この成功には後に帝人社長となる久村清太や、鈴木商店支配人金子直吉の多大な支援がありました。

◇◇◇ エピソード2

大学発ベンチャーの先駆け

大正5年、逸三は米沢高等工業学校を退官し、人絹産業視察のため欧米へ赴きます。時を同じくして舘山の製糸工場（現米沢三中敷地）が鈴木商店に買収され、大正7年に帝国人造絹糸が設立されると、逸三は取締役兼米沢工場技師長に就任、人絹の工業化に成功しました。このことから帝人は大学発ベンチャーの先駆けと言われます。

帝人米沢工場は、第一次大戦後の好景気で業績を上げた時期もありましたが、昭和恐慌のあおりを受け、昭和6年に操業を停止しました。逸三は大正15年に米沢を離れて広島へと移り、その後は帝人の筆頭常務や第二帝人社長などを歴任し、昭和19年に65年の生涯を閉じました。

平成22年、逸三の人絹開発の実話をもとにした市民ミュージカル「Faith」が上演され、多くの市民に勇気と感動を与え、その優れた業績に光が当たりました。9月29日(土)、上杉メモリアルフェスタの一環で再演されています。